

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成29年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
29-3	質の高い交通時代のモビリティの価値の計測手法開発に関する研究	広島大学大学院 教授 藤原 章正	A
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>異なる時間価値や時間制約を持つ移動主体が共生する質の高い交通時代のモビリティを実現するため、交通の価値の計測方法を再構築することを研究目的として、Connected 公共交通システムの社会的受容性の研究を実施する。</p> <p><事後評価結果></p> <p>異なる時間価値や時間制約を持つ移動主体が共生する超高齢社会における、モビリティの価値の計測方法の再構築について、レベルの高い成果が得られている。また、自動運転バスとLRTの協調サービスや、災害対応のレジリエンス改善の分析など、今後の展開が大いに期待できる研究成果も含まれている。このことから、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. モビリティ価値の計測手法について、多様な視点でモデル開発が行われ、個々の手法についてレベルの高い成果が得られているが、全体を俯瞰する、より総合的、包括的な評価へ展開されることが期待される。2. いくつかのテーマを学術的に深く掘り下げて大きな成果を得ている。自動運転バスとLRTの社会実験など、「モビリティの価値の計測方法を再構築する」という本研究の目的をはみ出す内容も見られるが、その部分を除いても研究目的は達成されており、さらにプラスアルファの成果があったといえる。3. 災害復旧における旅行時間信頼性の計測は極めて重要な研究で、実用化に向けた発展が期待される。4. 令和2年度からの新規採択研究の実施により、当該研究の更なる発展が期待される。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第40回新道路技術会議において審議したものである。